& ALPS FAMILY

>>> 家 族

被害対策とは保護者ができるトラブル・ 保護者ができるトラブル・ 子どものスマホ・SNS利田

低年齢化が進む

NTTドコモモバイル社会研究所の NTTドコモモバイル社会研究所の NTTドコモモバイル社会研究所の NTTドコモモバイル社会研究所の NTTドコモモバイル社会研究所の NTTドコモモバイル社会研究所の NTTドコモモバイル社会研究所の

SNSの利用開始も早くなっています。同調査によると、LINE・Instagram・ TikTok・Xのいずれかを利用している小中学生は上昇傾向で、63%に上りました。特に中学生は、ほとんどの学生が利用している状態です。周りに自分のスマホを持つ子どもが増えること、通学に電車を使ったり、部活などでの連絡に必要となることなどが 離話などでの連絡に必要となることなどが 理由でしょう。

サービス別の利用率を見ると、LINE・

国の小中学生が自由にインターネットに接ゆる「GIGA スクール構想」によって、全容量の通信ネットワークを整備する、いわ

全国の小中学生に一人一台端末と高速大

減少が続いている状態です。 ミュニケーションインフラと化しているので 学年・中学生ともに LINE が利用最多と にあります【図表2】。小学校低学年・ Instagram・TikTok の利用率が上 学生などにも多く利用されているのが特徴 TikTok は特に10代における人気が高く、 れぞれ17%、31%、52%まで増えています。 す。TikTokの利用率も伸びが顕著で、 り、低年齢でも利用する子どもが多く、 LINE は家族間での連絡に多く使われてお です。Xのみ、サービス改悪などの影響か なっており、中学生では92%に上ります。 傾 そ コ 高 向

知らず、低年齢の子どもが使った結果、被害上が対象となっており、LINE も12歳以上上が対象となっています。ところが前述のようで利用している子どもは少なくありません。が象年齢が設定されているのは、それ以下の対象外の年齢を齢では使いこなせず、リスクがあると考年的では使いこなせず、リスクがあると考えられるためです。そのような年齢制限を表しているです。そのような年齢制限を表している。

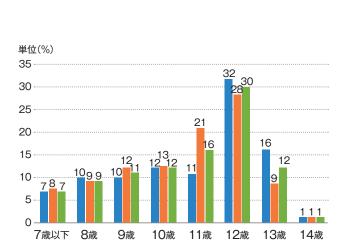
T ジャーナリスト/ 成蹊大学客員教授 高橋 暁子

わけです。やトラブルに遭ってしまっているという

態があります。ニフティが運営する子ども 取るだけではなく、SNSを使ってネット 巻き込まれてしまっているのです。 たり、会ったりしてしまい、様々な事件に れ故、ネットで知り合った人とやり取りし や交友に抵抗感がほとんどありません。そ の子ども達はスマホネイティブ、SNSネ とがある割合も、16・2%に上ります。今 約7割でした【図表3】。ネッ友に会ったこ ると、ネッ友がいる小中学生は69・6%と ッ友に関する調査(2024年8月)によ 向けポータルサイト「ニフティキッズ」のネ 知り合った人に会いに行ったりしている実 上の友達「ネッ友」を作ったり、ネットで イティブ世代であり、ネットでのやり取り 子ども達は、家族や身近な友人と連絡を

【図表1】 小中学生のスマホ所有開始年齢

■ 男子(n=147)

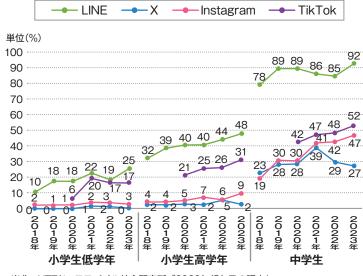


■ 女子(n=159)

■ 全体(n=306)

出典: NTTドコモモバイル社会研究所『2023年親と子の調査』

【図表2】 小中学生のサービス別SNS利用率 経年推移



出典: NTTドコモモバイル社会研究所『2023年親と子の調査』

って誹謗中傷が行われ、

自殺につながった

ことが懸念されます。学校の貸与端末を使

でのトラブルを経験しています。

コミュニケ

力の不足などから、

多くの子どもが友人間

事件まで起きており、学校や家庭での適切

ネットいじめに発展することもあります。 ーショントラブルやリアルでのいじめ

な指導が求められているのです。

も達への教育や見守りなどが十分ではない

シー教育等も受けていない世代であり、

します。

一方、

保護者や教員などはリテラ

ットやSNSなどへの知識が乏しく、

子ど

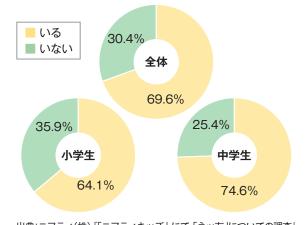
ニケーショントラブルです。文章力や読解

子どものネット利用で多いのが、コミュ

もがネットを使って自由に情報や人にアク 良いことですが、逆に言えば、すべての子ど もがICT機器を使えるようになったのは 続できる環境が整いました。すべての子ど

セスできるようになったということを意味

【図表3】「今、ネッ友はいる?」



出典:ニフティ(株)『「ニフティキッズ」にて「ネッ友」についての調査』

トラブルとは 子どものネット利用で起きる

のSNS利用を禁止する法案が施行されま 2025年に、オーストラリアで16歳未満

は子どもとコミュニケーションをとり、早期

きづらいところで起こることも多く、保護者 ネットいじめは LINE などの外部から気付

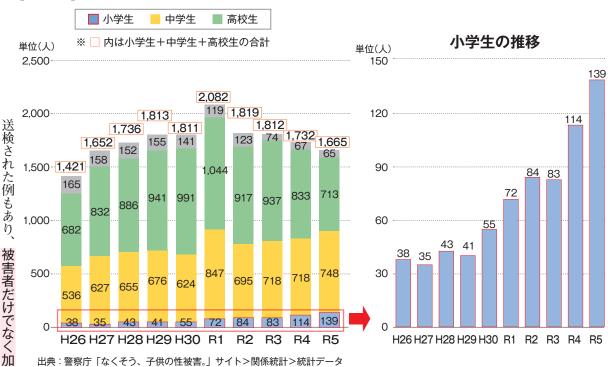
トラブルなどをきっかけに、逃避的にネッ する傾向にあります。学業不振や人間関係 ビス等の利用は、 に把握し対処することが大切です。 SNSやオンラインゲーム、動画共有サ 多くの子どもが長時間化

ことで罪に問われることが増えています。 誹謗中傷トラブルに巻き込まれることもあ 誹謗中傷メールを送ったとして、14歳が書類 池袋の乗用車暴走事故被害者遺族に対して 書き込みも開示請求がスピーディになった ります。 もいます ったり、不登校状態となってしまう子ども トにはまり、その結果ネット依存状態とな 不特定多数とのやり取りが増えることで、 「侮辱罪」は厳罰化しており、 誹謗中傷で罪に問われることが多 匿名での

の増加などが問題視されたためです。 す。 しょうか 日本ではどんな被害やトラブルが多いの 画等を見過ぎることによる摂食障害や自殺 め SNSによる性被害拡大、不適切な動 未成年におけるSNSでのネットいじ では、

族 家

SNSに起因する学職別被害児童数の推移 【図表4】



問われるようになっています。 求したり、 送ってしまう自画撮り被害などにもつなり 誘拐事件が起きたり、 もに近づくいわゆるグル することは、 目的を隠して16歳未満の子どもに面会を要 が注意すべき点です【図表4】。なお、 により、小学生の被害が増加傾向にあるの っています。 裸の写真や動画を送るよう要求 スマホの所持開始の低年齢化 「グルーミング罪」 騙されて裸の写真を として罪に

場合は、知らない人とやり取りしたり会った 齢の子どもでも利用している LINE のオ りしない約束を取り付けておく必要がある 子どもにそのようなサービスを利用させる プンチャットやオンラインゲーム等で知り Xや Instagram、TikTok などの他、 被害に遭うケースも増えてい 、ます 低年

も注意が必要です。 犯罪に巻き込まれる例が増えており、こちら 強盗予備容疑で逮捕されたのは、 される例が増えています。 応募していました。 の中学生等であり、 、イトに中高生が応募し、特殊詐欺で逮捕 また近年、 SNSで募集されている闇 中高生でもこのような SNSで闇バイトに 山 口県光市での 関東地方

保護者が注意すべきことは 子どものネット利用で

ューをさせる前に、親子で話し合って約束 まず大切なことは、子どもにネットデビ

ルタリング機能や、課金やアプリのダウン

SNSで加害者と知り合うことで起きるこ

害者とならない教育も必要となっています。

警察庁発表によると、

子どもの性被害は

とがほとんどです。

性的目的を隠して子ど

ーミングによっ 7 やル なのです。 SNSを利用させる前に決めることが大切 聞いてくれません。 てから後で制限しようとしても、 指針となるためでしょう。一度自由に使わせ 考えるきっかけになり、決めたルールが行動 っています。

スマホを持たせる前や

子どもは

どんな設定で使わせたらいいかを考えて 準備してから使わせるべきなのです。 全のための設定や対策が用意されており、 いるのかについて調べましょう。どんな安 アプリ等でどんなトラブルや被害が起きて 意しています。 があらかじめ安全のための設定や対策を用 ブルを防ぐために、 のですが、実は子どもに多い被害やトラ トラブルが起きてから慌てる保護者が多 まず、 通信事業者やメーカー 子どもに利用させる

ラートが出るような設定が可能です。 がりやすいアプリでも、 TikTok' 約束が守りやすくなります。 について約束を決めた後、 ール機能で防ぐことができます。 アミリーリンク等のペアレンタルコントロ iOS のスクリーンタイム、Android のフ 長さや終わりの時間を設定することで、 たとえば、子どもの長時間利用などは、 YouTube などの長時間利用につな 設定した時間でア 1日の利用時間 Instagram や 利用時間

よりもネットトラブルが少ないことが分 を決めている家庭では、 ールを決めることです。 適切な使い方や危険につい 決めていない家庭 約束やル 1

【図表5】 子どものネットトラブルに関する相談先

「誹謗中傷ホットライン」

セーファーインターネット協会

裸の写真をネット投稿されたら…「セーフライン」

ファーインターネット協会

ネットいじめに遭ったら

「SNS相談事業」の「SNS相談窓口-

厚生労働省

に依頼して、 ターネット協会の「誹謗中傷ホットライン」 誹謗中傷された場合は、セーファーイン 書き込みを削除してもらいま

【図表6】正しい情報を見抜く「だいふく」

誰……情報の一次ソースの発信者が 信頼できるかどうか?

情報が最新のものであるかどうか?

…その情報を調べ信頼できる情報源が 複数あるかどうか?

被害や犯罪に巻き込まれることも多いため、 ことが大切です。知らない人とのやり取りで どもが対象年齢外のアプリを利用すること 見守りなどが必要です。また、低年齢の子 ようにさせるといいでしょう 学校の友人など知り合いとのみつながる での被害も多いため、対象年齢は守らせる へのリテラシー教育や、約束・ルールの設定 ハコントロール機能だけでなく、 子どもの安全利用のためには、 子ども

たら、 がおすすめです。子どもが巻き込まれたネ 話し合うきっかけにしましょう。 ながったのか、どうすればよかったの ットトラブルや犯罪などのニュースを見かけ レビや新聞などのニュースを活用すること 親子でリテラシーを高めるためには、 なぜそのような被害やトラブルにつ かなど

遭った時に、保護者ができること 子どもがネットトラブルに

機関が用意されています。 くのネットトラブルには、 場合は、 ぜひ活用しましょう【図表5】 具体的な対策について教えてくれるので、 子どもがネットトラブルに巻き込まれ どうすればいいのでしょうか。 無料で相談でき 相談できる専門 多

活用するといいでしょう ペアレン あ くなる仕組みです。 ば削除してもらえます いれば、 ネット上に投稿されてしまっ 闇 同協会の バイトは、

しょう。 を活用し、LINEなどで相談するのもいいで NS相談事業」で紹介されている相談機関 ネットいじめなどは、厚生労働省の S

機関などに相談することで、被害は最小限 に抑えることができます。子どもに対して おくことが一番大切なのです。 あったら必ず相談してほしいことを伝えて いつでも味方になること、困ったことが なことが起きた時に、すぐに保護者や相談 たくトラブルに遭わないということは ·得ません。子どもが不安に思ったり心配 スマホやSNSなどを利用する際に、 ま あ

り 7

だいふく 誤情報、偽情報を見分けるコツは

ことが報じられました。 地震では、 誤情報や偽情報の見分け方です。 大人でも難しいのが、 誤情報や偽情報が多く出回っ ネッ・ 災害時は、 ト上に出回 能登半島 混乱 る

騙されて裸の写真を送り、 「セーフライン」 に依頼すれ た場合など イン タ による収益を目的としたいわゆる| インプレ ら誤情報や偽情報が増えることが分かって (広告や投稿がユーザーに表示された回 います。 特にSNSでは、 インプレッション

ゾンビ」などがデマを拡散するため、

「真贋を確認することが大切です。

コロナ禍で「トイレットペーパーが

不足

ロードを制限するなどの設定もできるため、

しょう。

守ってもらえるのです。 危害を加える」などと脅されて逃げられな います。途中で止めようとしても、 自宅住所などを送らされる仕組みとなって 警察に相談することで、 応募すると身分証 しかし応募しただけで 家族共 「家族に 明 書

偽情報にはついシェアしたくなるものが多

品不足になったことを覚えているでしょう。 する」というデマが広まったことで、実際に

デマはけっして広めないことが大切です。

いですが、

周囲に迷惑をかけてしまうため、

たら、 ことが分かります。 までシェアなどをしたり、 かどうか確認できない場合は、 の情報を調べ信頼できる情報源が複数あっ かどうか調べましょう。 発信者が信頼できるかどうか確認しましょ く」という合い言葉を覚えておきましょう しないようにしましょう。 【図表6】。「だ」は誰、情報の一次ソースの 正しい情報を見抜くためには、「だいふ <u>い</u> その情報も信頼できる可能性が高 はいつ、 情報が最新のものである もしその情報が正し 「ふく」は複数、 信じて行動等 確認できる

しまう、 頃は、 見守りが必要なのです。 子どもがスマホやSNSデビューしたての れてしまうと様々なリスクに巻き込まれ 役立つ便利なものです。 インターネットは、 保護者による適切な使い方の指導と 扱いが難しいものでもあります。 うまく使えば非常 ただし、 振り回

19